総合教育センターだより

街路樹

発行　第２０号
平成２０年　５月　１日（木）
いわき市総合教育センター
いわき市平字堂根町１－４
０２４６（２２）３７０５

学力向上に向けて ⑪

～　人間関係を大切にした学習指導　～

教師が熱心に指導すればするほど、子どもは意欲的に学習するようになります。やがて、子どもは教師の熱心な指導に対して感謝の気持ちを抱き始めます。教師は子どもの学習態度を好ましく思うようになります。このような両者の相互作用が、学習と指導が協同している状態であり、児童生徒の学力向上の土壌になるものと考えられます。

すなわち、学習と指導の協同の根底は、よりよき人間関係であり、そのことは、相互の信頼と個人の欲求の充足をもたらします。子どもが、学校で最も多くの時間を費やすのは授業です。授業が集団で営まれている以上、子どもと教師を含めた、信頼関係などの集団力学の立場からの授業の在り方が、吟味されなければならないと思います。

そこで、信頼関係を醸成するための人間関係のイメージ化のためのポイントとして、次のような視点を持って日々子どもたちとふれあってほしいと思います。

○　どんな学級にしたいのか。現状分析と子どもの考え方を集約し、学級集団としての期待像を明らかにする。

○　教師の願いを子どもに理解できるように表現する。
　とかく抽象的な文言になりやすい。例えば、仲良くする、協力するなど、分かりそうで分からない表現である。（仲良くする・・・問題行動があるから出されていることを明確にする。）
　子どもに理解させるためには、具体的で実現可能な行動目標を示す。子どもたちの認識で目標を作らせることが有効である。子ども任せではない。

○　行動目標を子どもに示し、理解できるかどうか確認する。

○　行動目標は日常生活の中で常に意識させる。自己評価あるいは相互評価をさせる。

こういった視点を持って考え行動することが、担任している学級の子どもを前に、望ましい人間関係とは何かを明らかにする重要な過程であると思います。とかく言葉だけが先走りして、教師が自分で言っている内容に対するイメージの不足から、実体のないことを子どもに要求することが多くなり、子どもの行動を見てとれていないという状況をつくっていることが見られます。

子どもと教師、子ども相互の信頼関係を作り上げていくために、教師としての行動規範を子どもの側に立って見直していくことも大切です。それが子どもたちの学びへの意欲や活発な学習活動につながっていくものと思います。

授業改善・指導技術　①

～日常の授業で指導力を向上させる視点～

日々の授業を反省し改善を重ねていく姿勢や取り組みは、教師としての重要な資質や能力です。次の点を意識し改善を重ねていきましょう。

■　目標が甘くないか。・・目標を持つことと達成度を把握すること。
　○　ねらいに即して評価規準を設定し、考察する。
　○　単元の中間地点で、確認テストをし、授業計画を修正する。

■　考えさせているか。・・考えさせる時間を与えるようにする。
　○　１時間で中心となる発問を１～２つ設定する。
　○　主発問については、思考時間（5分以上）を確保する。

■　指導のスキルを伸ばしているか。・・授業を効果的にする。
　○　スピード、間、声の大きさなどの話し方を振り返る。
　○　思考の流れを確認させ、重要なポイントが示せるよう、板書計画を立てる。

■　できる子どもを伸ばしているか。・・待たせていないか。
　○　習熟度に応じた学習など単元構成を工夫する。
　○　１時間の授業の複線化（課題の取り組ませ方）を工夫する。

※　授業改善は、教師の生命線です。経験に頼って授業するのではなく、自分の指導を客観的にとらえたいものです。

学級経営のヒント　①

学級がその目的を効果的に達成するために、教師が行う学級生活に関する計画や運営を学級経営といいます。教師は、よりよい集団としての学級づくり、児童・生徒に「生きる力」を身につけさせていくために、多様な教育活動や教育的配慮を心がけなければなりません。

～学級担任の役割～

○　子どもを多面的に理解すること。
○　望ましい生活習慣や規律を身につけさせること。
○　確かな学力の定着を図ること。
○　学級を民主的・自主的な集団に育てること。
○　教室の環境が生活にふさわしく整えられていること。
○　家庭との連携や協力が図られていること。
○　学級事務の効率的な処理を行うこと。

公教育では、子どもも親も学級担任を選択できません。教師は、よい先生に受け持ってもらいたいという願いに、授業とともに何によって答えるべきであろうか。次号より学級経営の基本や具体的なポイントを載せていきたいと考えています。

研修の感想・講義紹介

初任者研修〈一般研修〉

○　いわき市では、英語教育、学校図書館の活用、小・中連携に力を入れていることを知ることができました。いわき市の教員として、力を入れて子どもたちに指導していきたいと思います。（小・S）

○　私たち教師はプロであるから、情熱を具現化する技術、武器を持たねばならないというお話は身の引き締まる思いで聞いた。プロとしての力量をつけるために研修に励み、力をつけていきたい。（小・H）

○　先生方の講話の中で共通していたのが「子どもと向き合う」ということであった。子どもと心を通じて向き合えるようにしたい。（中・H）

○　「初心忘れるべからず」そして、「誠実さを忘れない」という言葉が心に残っています。信頼される教師になりたいという想いがさらに大きくなりました。（小養・S）

新任常勤講師研修講義より

「ほめること」

◇　ほめることの効用　・・・　うれしい　→　情動　◇

○　よいこと、できたことをほめるのは誰でもできる。

○　表面だけみていたのではわからない隠されたよさ、ひそかに流したであろう汗と涙を拾い上げてほめることが大事。

○　もっと、大事なことは、ほめるものをつくってやること、そして、それをほめること。これが専門職としての教師のほめ方である。
　　－元福島県義務教育課長　皆川　新先生のことばより－

※　世の中には一番悪い欠点のみ指摘されたため、最善の努力を傾ける事をやめた人は無数にいる。

※　取り柄がなくても、ほめるところはある。ほめる所がないのではなく、ほめる力がないだけである。